

第 413 回 東京大学図書行政商議会議事要旨

日 時 平成 26 年 3 月 12 日 (水) 10:00～12:10

場 所 総合図書館 3 階 大会議室

出席者 <委員長> 古田元夫 <副委員長> 石田英敬、田畑 仁 <委員> 高田裕成、高戸 毅、大津 透、榎森康文(代)、清水謙多郎、佐口和郎(代)、橋本毅彦、根本 彰、村田茂穂、金井雅彦、斎藤 馨、今井 浩、橋元良明、山梨裕司、栗田 敬(代)、板倉聖哲、大湾秀雄、畑中研一、山家浩樹、川崎雅裕、勝本信吾、阿部彩子(代)、玉井克哉

※(代)は代理出席者

<オブザーバー> 酒井哲哉、雨宮慶幸、大和裕幸、中川裕志 (代)、玄田有史

欠席者 白髭克彦

列席者 関川雅彦、高橋 努、木下 聡、北村照夫、市村櫻子、増田晃一、風巻利夫、渡辺一兄、吉田左貴子、三浦圭子、笠原政宏、藤本蒂子、野口真理子、濱田すみ子、合田美恵子、森田美由紀、本多 玄、守屋文葉、高橋 隆、村上晋司、坪 陽子、山崎裕子、金藤伴成

配付資料

1. 第 412 回東京大学図書行政商議会議事要旨
2. 東京大学附属図書館教員選考規則
(回収資料 1) アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の兼務を依頼する本学教員
(回収資料 2) 特任教員候補者資料
- 3-1. 平成 26 年度新図書館計画実行体制 (案)
- 3-2. 東京大学図書行政商議会議事規則
4. 平成 26 年度大型コレクション選定結果一覧
5. 平成 25 年度第 2 回附属図書館運営委員会議事次第
6. 平成 25 年度第 2 回図書行政商議会附属図書館サービス特別委員会議事次第
7. 第 29 回駒場図書館運営委員会議事次第
- 8-1. 平成 25 年度東京大学附属図書館自己点検評価報告書 (平成 19 年度～24 年度)
- 8-2. 東京大学附属図書館外部評価委員 (案)
9. 学部教育の総合的改革の推進
10. 東京大学附属図書館文献複写等料金規則
11. 平成 26 年度第 1 回図書行政商議会附属図書館サービス特別委員会議事次第

<開 会>

- ・古田委員長の主宰のもとに開会した。
- ・古田委員長から代理出席者の紹介があった。

<議 事>

1. 前回議事要旨の確定

古田委員長から、第 412 回議事要旨を資料 1 のとおり確定し、ホームページで公開した旨報告

があった。

2. 協議事項

(1) アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の特任教員の選考について

アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の特任教員候補者の投票を行うにあたり、附属図書館教員選考規則に基づき、商議会委員25名のうち20名が出席しており、3分の2以上の出席という定足数を満たしていることが確認された。

古田委員長から、当寄付研究部門に関わる選考手続きの経緯について、以下のとおり報告があった。

- ・第1回人事選考委員会（12月17日開催）
教員公募要領（案）を審議
- ・第1回附属図書館運営委員会（12月25日開催）
教員公募要領（案）を了承
寄付研究部門の兼務教員について了承
- ・公募（特任准教授1名、特任助教1名） 12月27日から1月30日
- ・第2回人事選考委員会（2月17日開催）
特任准教授候補者10名、特任助教候補者26名の応募者から書類審査により、
特任准教授候補者2名、特任助教候補者4名の面接を実施し、各候補者1名
を選考
- ・第2回附属図書館運営委員会（2月25日開催）
特任准教授候補者1名、特任助教候補者1名を審査

引き続き、末廣昭教授（社会科学研究所）、木村英樹教授（人文社会系研究科）、板倉聖哲教授（東洋文化研究所）を当研究部門の兼務教員とすることについて報告があり異議なく、了承された。

特任准教授候補者北沢かなの無記名投票があり、高戸委員（医学系研究科）、勝本委員（物性研究所）の立会いのもと開票され、教員予定者として決定された。

特任助教候補者永澤済を教員予定者とするものの報告があり異議なく、了承された。

古田委員長から、以下の説明があった。当寄付研究部門については、将来的には、アジア研究図書館の運営委員会が設置されるが、当面は附属図書館長のもとで運営、管理される。また、部門長には、兼務教員の木村英樹教授（人文社会系研究科）が就任する予定である。

(2) 平成26年度新図書館計画実行体制について

石田副委員長から、資料3に基づき、新図書館計画の新しい実行体制について説明があった。さらに、新図書館計画の進行を睨みながら附属図書館の運営組織の点検、整備をしていく必要性が高く、それを円滑に実施するために東京大学図書行政商議会規則の規定に基づいて、来年度から附属図書館将来計画特別委員会を設置したい旨の提案があり、異議なく了承された。

古田委員長から、4月開催の図書行政商議会に特別委員会の設置規則や具体的な構成について諮りたい旨発言があった。

(3) 大型コレクションの選定について

畑中サービス特別委員長から、平成26年1月31日開催の平成25年度第2回サービス特別委員会において、平成26年度大型コレクションについて3件の購入候補を選定したとの報告があった。続いて、木下情報管理課長から、資料4に基づき、以下の説明があった。平成25年11月から12月までの募集期間に、5部局から7件の応募があり、サービス特別委員会において、資料の内容、部局の推薦順位、昨年度までに採択された資料の推薦部局などを勘案したうえで、3点を選定した。3点の見積ベースでの合計金額は2,717万円であり、予算額3,000万円に満たない部分については、運用指針に基づき翌年度に繰り越すこととした。また、データベースのうち、年間維持費の必要なものについては、昨年度より継続申請をして、それをサービス特別委員会で協議することとなっており、今年度は2部局から3点の提出があり、何れも協議の結果、承認された。これらの年間維持費の合計は16万円で、先ほどの2,717万円と合わせて、約2,733万円の支出が見込まれている。審議の結果、サービス特別委員会が選定した購入候補は、案のとおり了承された。

3. 報告事項

(1) 附属図書館運営委員会報告について

古田委員長から協議事項で説明したので割愛するとの発言があった。

(2) 附属図書館サービス特別委員会報告について

畑中サービス特別委員長から、資料6に基づき、以下の報告があった。オープンアクセス料金が無料になるイギリス化学会の Gold for Gold という制度があり、その申込み結果について報告があり、来年も同様のサービスを実施予定であるとの決定があったこと。続いて平成26年度大型コレクションについて、3点の購入候補を選定したこと。今後の全学共通経費のあり方について、雑誌の値上がりへの対応、パッケージ契約の継続、必要経費の見通しと予算措置、全学共通経費で購入するタイトルの範囲について協議した。

(3) 駒場図書館運営委員会報告について

酒井駒場図書館長から、資料7に基づき、以下の報告があった。第29回駒場図書館運営委員会が平成25年12月5日に総合文化研究科図書委員会と合同で開催され、報告事項の(4)駒場図書館2期棟の平成27年度概算要求について、駒場図書館に隣接した地上4階、地下2階、総床面積約6,000㎡の施設の新造を毎年提出しているものを今年も要求した。コンセプトは「教養の杜」で、教養の集積、教養の実践、教養の発信となっていること。続いて(5)駒場図書館活動報告事項について、平成25年6月から11月までの夏季期間中の閲覧室利用縮小、遡及入力、蔵書点検、マイクロ室改修、ホームカミングデイ展示、ホームページの英文化を行ったということ。協議事項の(1)貴重書規程について、貴重図書等指定基準、同取扱要領を協議して承認したこと。(4)駒場図書館1階展示ケースの活用について、展示ケース利用内規を制定し、展示ケースを学生の教育や学術成果の普及及び教養の涵養を目的として、教職員や学生に貸し出すことになり、貸出期間は3週間以内で、現在までに数件の問い合わせがあり、その内1件が採用されて4月には最初の展示が行われること。

(4) 新図書館計画の進捗について

石田副委員長から、新図書館計画の進捗状況について、以下の報告があった。現在進行中の第1

期工事の建設作業が進んできており、アカデミック・コモンズを新営する計画は、清水建設と12月27日に契約が結ばれた。それ以降、週単位で設計の定例会議等を推進室と建設業者との間で行っており、実施設計を経て、26年11月から28年12月にかけて工事が行われる計画となっている。埋蔵文化財調査については、興味深いものが沢山でてきて、当初よりは期間が延長されており、本年の3月末まで行われることになっている。本館改修については、平成26年度概算要求が財務省まで行かなかったため、改めて平成27年度概算要求で取組むことになっている。但し、概算要求の成否を除いても先行的に行うべき工事で、屋上、外壁、あるいは地下部分については、予め整備ができるので、その方面の工事から手掛けることになっている。平成25年度の補正予算で、図書館ではなくて図書館と棟続きの社研部分の建物について耐震補強が予算措置されており、工事が開始されることになっている。本館を全面的に改修することについて、外観や歴史的部分についてはむしろ元に戻し歴史的価値を担保することを目指しており、現在大学が取り組んでいる教育に関わる改革という大きな目標もあるため、どのようにフロアと機能を作っていくのかを検討するためにフロアプラン・タスクフォースを新図書館計画の図書館高度化部会のサブワーキング1の下に設置して、昨年の12月から3時間幅の会議を8回開いて検討を進めているところである。

図書館及び図書館計画についての情報を積極的に外へ出していく必要があるため、様々なイベントをこの間行ってきており、図書館トークイベントをシリーズ化して、講演会やトーク等を図書館の洋雑誌閲覧室で、毎回100人前後の人達を集め、広報活動を行なっている。直近では、3月14日に南原繁記念出版賞の表彰式が行なわれる予定である。

広報関係については、新図書館計画の独自のウェブサイト을2か月ほど前にオープンし、ここにいくつか広報活動を掲載している。かなり速いスピードでいろいろな新図書館計画の作業が進んでいるため、情報共有をする必要性から、新図書館計画のメールマガジンを発行している。職員及び商議会の先生方、その他関係者の方々に、このメールマガジンをほぼ毎月配信していて、計画の状況がわかるようになっている。これらは、特に若手の職員達が課題検討グループとして非常に大きなエネルギーを使って取組んでいる。

アジア研究図書館については、寄付研究部門の設置を行なった。

40億円を目標額とする寄附事業については、目標にはまだかなり遠いが、東京大学の寄附事業としては、比較的順調で、寄付研究部門の分を除いて2億円に迫ってきている状況である。いろいろな方にお会いして、営業活動をしており、もし有力な寄附が可能な方がいたら、是非紹介してほしい。そういう活動があって集まってくるものなので、増々この活動を強化していこうと思っている。

教育への取り組みに関しては、図書館は従来、授業、講義が行われたことがなかった。そこで、「未来の書物の未来」という全学自由研究ゼミナールを図書館で開講した。こうした様々な取組みとして電子図書館の活用実験、図書館と博物館との交流実験などを良い雰囲気の中で行ってきた旨の報告があった。

(5) 自己点検評価・外部評価の実施について

古田委員長から、資料8-1に基づき、以下の報告があった。自己点検評価報告書がまとまり、第1部にこれまでの経緯、第2部に平成19年度から24年度までを視野に入れた附属図書館の活動、第3部に附属図書館のそれぞれの機能に関する評価、第4部にまとめと今後の課題という構成になっており、それに第5部として資料編を付けたものである。図書館にとって重要な文書であるため、事前に委員の方々へ配付した。気付いた点等があった場合は御一報いただければ、実施委員

会で協議し、最終的にどう処理したかを4月の商議会で報告する。また、続いて資料8-2に基づき、来年度は外部評価を実施予定であり、大規模国立大学の図書館長として京大の引原先生、私立大学図書館長として慶應義塾大学の田村先生、学術情報流通の専門家としてNIIの安達先生、海外大学図書館としてコペンハーゲン大学図書館の副館長ローデ先生、図書館情報学の研究者として東北学院大学の佐藤先生の5名に照会している旨の報告が併せてあった。

(6) 平成27年度概算要求について

古田委員長から、平成27年度の概算要求について、総合図書館本館の改修工事については、引き続き準備を進めており、平成27年度の新規事項として自動化書庫の設備整備を、第1期分200万冊分を提出し、全学のヒアリングもクリアしている旨の報告があった。

(7) 学部教育の総合的改革について

古田委員長から、資料9に基づき、以下の報告があった。これは、学部教育の総合的改革に関して各部局から提出された様々なアイデアをひとつの絵にまとめたものである。教育資源の有効活用という項目の中に「図書館機能の充実」が記載され、図書館機能の充実が、本学が進めている学部教育の総合的改革の推進の不可欠な課題であると位置付けられたので、附属図書館全体としても活用するが、教育改革の観点から各部局図書館・室の充実強化を主張する際に活用いただきたい。

(8) その他

1) 消費税率引き上げに伴う文献複写料金の取扱いについて

北村情報サービス課長から、資料10に基づき、4月1日から消費税率が5%から8%に改定されるに伴い文献複写料金について検討した結果、文献複写料金自体が少額であり、税率改定に伴う引上げ額がわずかにとどまる見込みであるため料金改定するには及ばないと判断し、規則に定めた料金の改定はしないこととする旨、報告があった。また、平成27年10月には、消費税率10%に引上げとなる可能性もあるが、その際は別途検討するとの発言があった。

2) 柏図書館開館10周年記念事業について

雨宮柏図書館長から、以下の報告があった。配付資料に基づき、柏図書館が創立10周年を迎えるにあたり、科学史、世界結晶年をテーマに講演会、サイエンスカフェ、トークイベント、上映会、企画展示等のイベントを予定している。その第1回目として、物性研究所の家 前所長に科学史、世界結晶年をテーマに講演をお願いした。

3) 海外新聞データベースについて

古田委員長から、海外新聞データベース導入の経緯についての説明の後、木下情報管理課長から、次のような報告があった。ライブラリー・プレス・ディスプレイというデータベースは、100ヶ国の2000紙以上の新聞が読めるようになっており、全学で20ユーザーまで同時にアクセスできる。また、データベースの提供を視覚的にアピールする、3つのキャンパス拠点図書館に、大型タッチパネルディスプレイを設置する予定である。ディスプレイに大きく表示して新聞のイメージそのまま読むことができ、操作も簡単になっている。部局図書館等で利用希望者がいたら活用してほしいこと、4月以降にディスプレイを使ったイベントを開催する予定である。

4. その他

- ・古田委員長から、資料 1 1 に基づき、従来年 4 回の開催としていた図書行政商議会について、審議すべき案件が増えており、平成 2 6 年度から年 6 回としたい旨の説明があり、図書行政商議会の開催日程が示された。
- ・古田委員長から、今年度で交代される委員の方へ全学の図書行政、部局の図書行政への尽力に対して謝辞が述べられた。
- ・根本委員から、教育学部附属中等教育学校所属者の図書館・室利用について、総合図書館、駒場図書館の他、多くの部局図書館・室が利用可能となったことに対し謝辞が述べられた。
- ・古田委員長から、次回の図書行政商議会は平成 2 6 年 4 月 2 3 日(水)の 1 0 時からを予定している旨の発言があった。

<閉 会>